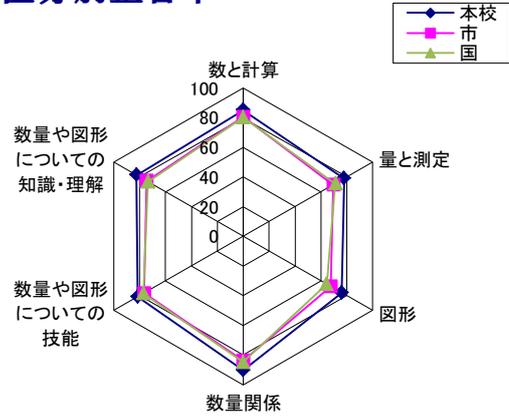


宇都宮市立平石北小学校第6学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

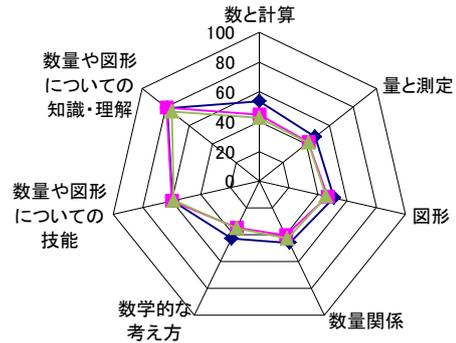
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	85.0	80.7	80.1
	量と測定	77.8	69.6	71.3
	図形	76.2	67.4	64.5
	数量関係	90.5	83.7	84.9
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	81.6	76.8	77.2
	数量や図形についての知識・理解	82.5	74.8	73.6



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	53.6	44.6	42.4
	量と測定	47.6	41.8	41.7
	図形	51.0	46.8	45.6
	数量関係	46.0	40.6	43.0
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	42.9	34.9	35.3
	数量や図形についての技能	59.5	59.8	58.7
	数量や図形についての知識・理解	78.6	79.1	74.9



★算数に関する質問紙調査の状況

- ・算数に関して「大切だ」「将来役に立つ」と肯定的に考えている児童が多い。
- ・ノートの書き方を工夫したり、簡単に解く方法を考えようとしていたりしている児童が多い。

★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・算数Aにおける領域の平均正答率は、宇都宮市の平均を上回っている。算数Bにおいても同じである。	・計算ドリルなどを用いて、繰り返し計算練習を行ったり、既習学年の復習を行ったりしていく。(継続)
量と測定	・算数Aにおける領域の平均正答率は、宇都宮市の平均を上回っている。算数Bにおいても同じである。 ・算数Bでは、図形を分割して面積が同じになる理由を記述する問題において、正答率が極端に低い。	・既習の学習内容を復習していく。 ・児童が、これまでに学習した内容を用いて横断的に考えられるように教材や練習問題を工夫する。
図形	・算数Aにおける領域の平均正答率は、宇都宮市の平均正答率を上回っている。算数Bにおいても同じである。 ・算数Bでは、答えを導き出すために図形を見出さなければならない問題や、図形の性質を使った応用問題において、正答率が低くなっている。	・既習の学習内容を復習していく。 ・児童が、これまでに学習した内容を用いて横断的に考えられるように、教材や練習問題を工夫する。
数量関係	・算数Aにおける領域の平均正答率は、宇都宮市の平均正答率を上回っている。算数Bにおいては、正答率はほぼ同じである。 ・算数Bでは、示された情報が何を求めるためのものなのかを的確に捉え、基準量を求める問題において、正答率が低い。	・学習した内容を用いて、考えて説明する活動の場を多く設定するようにしていく。(継続) ・教科書教材からも、さまざまな情報から必要なものを選んで答えるような問題を多く練習するようにする。